

今日私たちが目にしている古美術品は、長い年月を人から人へと受け継がれてきました。その間、経年変化や、所有した人あるいは時代の好みにより、切断されて新たに表装された絵巻や古筆、破損して補修された茶道具など、制作時と形を変えたものが少なくありません。それらは、私たちが今日当たり前のように享受している鑑賞スタイルや作品のあり方、美しさの感じ方にひとかたならぬ影響を与えています。

本展は、將軍や茶人をはじめとする所有者たちによる改変が、どれほどの深い愛情と驚くほどの創造力をもって行なわれたかを、国宝4件、重要文化財35件を含む約100件の名品によって知る機会といたします。

新創開館5周年 記念特別展

名画を切り、

名器を継ぐ

美術にみる 愛蔵のかたち

主な出品作品

通期

- 国宝 三体白氏詩巻 小野道風筆 正木美術館蔵 ※巻替あり
- 重文 石山切 伊勢集 伝藤原公任筆 梅澤記念館蔵
- 重文 白描絵入源氏物語残簡 浮舟大和文華館蔵 ※巻替あり
- 重文 弄玉仙図(金谷屏風) 岩佐又兵衛筆 滴水軒記念文化振興財団蔵
- 重文 公余探勝図 下巻 谷文晁筆 東京国立博物館蔵 ※巻替あり
- 重文 赤楽茶碗 銘乙御前 本阿弥光悦作 個人蔵
- 前期(9/20~10/13)
 - 国宝 瀟湘八景図 漁村夕照 牧翁筆 根津美術館蔵
 - 重文 嵐山図 玉潤筆 岡山県立美術館蔵
 - 重文 傲高克菴山水図巻 雪舟筆 山口県立美術館蔵
 - 重文 崔子玉座右銘断簡 空海筆 大師会蔵
 - 鳥獣戯画断簡
 - MIHO MUSEUM蔵(9/20~10/19)
 - 重文 日月松鶴図屏風 三井記念美術館蔵
 - 瀬戸尻影茶入 銘伊予藤 昭和美術館蔵
 - 重文 青磁輪花碗 銘馬螺蚌 東京国立博物館蔵(9/20~10/1)
 - 重文 唐物肩衝茶入 銘松屋 根津美術館蔵(9/20~10/19)
 - 後期(10/15~11/3)
 - 国宝 布袋菩薩詞問答図 因陀羅筆 楚石梵琦賛 根津美術館蔵
 - 重文 芭蕉夜雨図 太白真玄ほか14名賛 東京国立博物館蔵
 - 国宝 輪墨城 MOA美術館蔵
 - 重文 佐竹本三十六歌仙絵 大中臣頼基 遠山記念館蔵
 - 重文 上畳本三十六歌仙絵 藤原兼輔 泉屋博古館蔵
 - 重文 上畳本三十六歌仙絵 源重之 MOA美術館蔵
 - 重文 駿牛図断簡 東京国立博物館蔵
 - 重文 唐物肩衝茶入 銘初花 徳川記念財団蔵(10/21~11/3)

(前後期にあてはまらないものについては期間を明記した)

美を分かち合うための切断

佐竹本の三美人勢揃い 同時展示期間 9/20~10/13

秋田佐竹侯に伝来したことから佐竹本と呼ばれる現存最古の三十六歌仙絵の巻物2巻は、高額すぎて一人で買えるコレクターはいないと判断され、大正8年(1919)に各歌仙ごとに切断されて、抽選によつて売却された。色鮮やかな女性歌仙の評価額がとくに高く、齋宮女御を筆頭に小野小町、小大君がそのベスト3であった。この3幅を同時に見られる機会はめつたにない。

佐竹本三十六歌仙絵 齋宮女御(部分) 日本 鎌倉時代 13世紀 個人蔵
9/20~10/13、10/28~11/3 展示



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵 小野小町(部分) 日本 鎌倉時代 13世紀 個人蔵
9/20~10/13 展示



重要文化財 佐竹本三十六歌仙絵 小大君(部分) 日本 鎌倉時代 13世紀 大和文華館蔵
9/20~10/13 展示



傷をも愛でる鑑賞の極意

秀吉が継がせた花瓶

天満宮の繪本社である京都・北野天満宮に伝わる青磁瓶。このような大型の青磁瓶は京都や鎌倉の有力寺社に伝わる作例が多い。頸の部分の修理は、北野社と深い繋がりをもった豊臣秀吉(1537~1598)がさせたものと伝えられる。

青磁貼花牡丹唐草文瓶 龍泉窯 中国・南宋・元時代 13 14世紀 北野天満宮蔵 通期展示



名碗の大手術

十文字に切り、寸法を縮めて漆で継いだ茶碗。茶碗としては大きすぎたために行なつたのであろうか。持ち主のこだわりが感じられると同時に、改変されてなお見所がある茶碗である。古田織部(1543~1615)の所持と伝わる。

大井戸茶碗 銘須弥別銘十文字 朝鮮 朝鮮時代 16世紀 三井記念美術館蔵 通期展示



震災を乗り越えて よみがえった名器

千宗旦(1578~1658)から武者小路千家に伝わり、のちに高松松平家に献上された。長次郎による赤楽茶碗の典型として伝えられた。関東大震災で罹災し破片となつてしまつたが、昭和9年(1934)、その破片のひとつを組み込んで楽家13代惺入がもとの形に再生した。

赤楽茶碗 銘木守 長次郎作/樂惺入補作 日本 桃山時代 16世紀/昭和9年(1934) 高松松平家歴史資料 通期展示



トリミングされた 平治物語絵巻

「三条殿夜討巻」(ボストン美術館蔵)、「六波羅行幸巻」(国宝 東京国立博物館蔵)などと同じセットとして制作された「六波羅合戦巻」の断簡。この巻の絵は、破損した1巻から切り取つたと推定される14図の小画面の存在が昭和19年(1944)に報告された。現在14図すべての所在は分かつていないが、本展では4図が展示される。

平治物語絵巻六波羅合戦巻断簡 日本 鎌倉時代 13世紀 大和文華館蔵
『背景の白描模本は東京国立博物館蔵(パネル展示)』
10/15~11/3 展示



石山切を分割した職人の「すご技」

名高い「本願寺本三十六人家集」(国宝 西本願寺蔵)のうちの「伊勢集」と「貫之集下」の2帖を、昭和4年(1929)にページごとに分割し(つまり1枚の紙を剥いで表裏2枚にする)、財界人らに売却して、西本願寺が女子大学創設のための資金とした。破り継ぎの技法でちぎり絵のように山の景色を表した、美しい料紙の複雑な分割の過程を、左下に示した。もと連続した3ページであった3幅を同時に展示する。

